



平成 17 年度島しょ農林水産総合センター大島事業所成果報告会

日 時： 平成 18 年 3 月 20 日 (月), 午後 3 時から 5 時

開催場所： クダッチ老人福祉館

1. 開会挨拶：東京都島しょ農林水産総合センター大島事業所

所長 堤 清樹 (15:00 ~ 15:05)

2. 課題報告



1) 「オゴノリ」のアワビ類稚貝に対する餌料価値について

滝尾健二 (15:10 ~ 15:30)

伊豆諸島におけるアワビ養殖において天然海藻を用いる場合、アワビの成長が良く、大量に採集できるのは、アントクメ (通称: ヒロメ) に限られます。しかし、アントクメは、アワビが大きく成長する冬から春にかけての期間には、枯れてしまっており、また、保存したアントクメも、生の場合と比べてアワビの成長が悪いなど、問題があります。そこで、今回、冬から春にかけて採集可能な「オゴノリ」について、アワビへの給餌試験と培養試験をおこなって、アントクメに代わる餌料海藻としての価値を検討しました。その結果、オゴノリに十分な餌料価値は認められませんでした。アワビの摂餌特性やオゴノリの成長特性をふまえ、給餌や培養方法を工夫することにより、餌料価値が高まる可能性があると思われました。



2) サメ被害対策WGの取り組み

瀧口香穂 (15:30 ~ 15:50)

伊豆諸島海域ではサメによる漁業被害が頻繁に発生しています。東京都では平成 16 年にサメ被害対策ワーキンググループ(WG)を立ち上げ、この問題に取り組んでいます。この中で大島事業所では、被害状況の聞き取り調査、調査船「やしお」による分布調査、一斉駆除への支援の他に伊豆大島漁協女性部とサメを使った加工製品の作成に取り組んできました。これらの取り組み内容とともに、2006年2月17日に行われた「漁業被害を及ぼすサメ類を使った地域特産物の成果発表会」について報告します。



3) 黒潮の海況予測 (2006年1~6月まで)

東元俊光 (15:50 ~ 16:10)

2005年12月に中央水産研究所で開催された「長期漁海況予報会議」において、2006年前半の黒潮流路は、N型基調で推移すると予測されました。

昨年の6月にA型海況がくずれて7~9月はC型、その後、D型を経てN型が続いてきましたが、3月に小規模のB型、C型で経過しています。一方、1月に発生した九州南東沖の小蛇行はすでに規模を拡大しています。九州南東沖の小蛇行は、黒潮の流型変化をもたらすことが知られており、その後の動向が気になるところです。

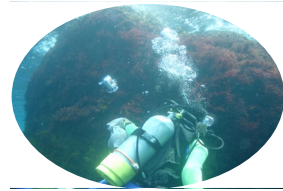


4) 伊豆諸島海域におけるキンメダイ仔魚の分布ー 2

前田洋志 (16:10 ~ 16:30)

伊豆諸島におけるキンメダイの初期生活史を明らかにするために、大島～鳥島間および八丈島北方の黒瀬海域において、各種のプランクトンネットによる調査を行いました。

このうち黒瀬海域では表層から水深 300 mまでの 7 層でキンメダイ仔魚が合計 338 個体採集され、形態観察から本種仔魚の分布生態に関して新たな知見が得られました。



5) 三宅島における磯根資源の現況

川辺勝俊 (16:30 ~ 16:50)

地元漁協の磯根漁業を支援するため、噴火前まで最も生産額の高かったテングサ類を中心に、フクトコブシ、サザエ、トサカノリ、アントクメなどについてモニタリング調査を実施しました。その結果、テングサ類のオオブサとサザエ、アントクメは資源量が多く、フクトコブシとトサカノリは場所によって生産量および繁茂量に違いがありました。また、テングサ類のマクサはまだ噴火の影響が残り、島のほぼ全域で着生量の少ない状況が続いています。

6) 質疑応答・その他 (16:50 ~ 17:00)

東京都島しょ農林水産総合センター大島事業所 (旧東京都水産試験場大島分場)

Tel.04992-4-0381 Fax.04992-4-0383

ホームページ: <http://www.ifarc.metro.tokyo.jp/>

メモ